

## 平成28年度中種子養護学校の取組(第1回目の課題に対する取組)

### 1 【第1回目の協議内容から】

項目・取組	成果(○)・来年度の取組(□)
<p>(1) 職員の勤務時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施錠時間を19:00に設定し、延長を希望する場合は「申し出」により対応している。</li> </ul>	<p><input type="radio"/> 最長50時間を超える職員には個別に指導している。また、申し出による対応は、土日も含んでいるが、時間を限定して管理職が対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本線を崩さずに「申し出による対応」をする。</p>
<p>(2) 「挨拶」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校でも課題である。</li> </ul>	<p><input type="radio"/> 挨拶のほか、児童生徒の呼名に対しても「○○さん」付けで呼ぶようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人権を尊重した取組として、継続する。</p>
<p>(3) 学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校では、責任をもって評価してもらうため、「記名式」にしている。</li> <li>・ 子どもの成長に関連して、状態が分からず無回答になる。</li> <li>・ 評価の主語は何か。</li> <li>・ 中学校の回数は何回か。</li> </ul>	<p><input type="radio"/> 職員を記名式にしたことで、建設的な意見が多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者が回答しやすいように、「時期」を検討する。</p> <p><input type="radio"/> 「学校」で統一している。</p> <p><input type="radio"/> 学期に1回、年3回である。</p>

### 2 【学校評価から】

※ 各項目等の詳細は係:笹河より説明

※ 平均点が下降した項目について

<p>(1) 学園・関係機関・保護者との連携について</p>	<p><input type="radio"/> 連携はしているが、連絡帳だけでなく、必要に応じては「顔を付き合わせての連携」も必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 学園との定期的な話し合いのように、保護者や関係機関との連携の仕方については期日を指定するなど工夫する。</p>
<p>(2) ヒヤリハット等の情報の共通について</p>	<p><input type="radio"/> 安全点検日に複数でチェックすることで危険箇所等について、共通理解ができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 今後は、職員朝会や職員会議など、職員全員が集まる場面で情報を共有する仕組みを検討していく。</p>

## 2 地域の中の本校としての取組

項目・取組	成果(○)・来年度の取組(□)
<p>(1) 生活環境の整備等について</p> <p>→ 中学部棟や食堂, 校長室, 事務室の空調設備が完了したことで, 生活環境が改善されている。</p>	<p>○ 児童生徒の実態に応じて, 教室や給食室の環境を調整しやすくなり, 児童生徒のより一層の学習や食に関する指導等の意欲を高めることができると思われる。</p> <p>□ 今後, 給食施設の見直しがなされる予定である。</p>
<p>(2) 学習環境の充実について</p> <p>→ 三か年計画で設定した研修テーマに沿って, 「授業の充実」が図られている。</p>	<p>○ 一人一授業公開を中心に据えた研修により, 子どもの学びに関する意識や指導が向上している。その成果を, 来年度の教育課程編成につなげる。</p> <p>□ 県の事業「授業向上プログラム」として, なかよう公開に抱き合わせて「授業研究」を行う。</p>
<p>(3) その他</p> <p>→ 卒業生に対するフォローを関係機関とも連携して進めている。また, 高等部の職場開拓や職員の就労体験により, 就労に対しての意識を高めている。</p>	<p>○ 必要に応じて, 関係機関とこまやかな連携をとり対応している。卒業生の進路先に関しては, 柔軟に対応し職場開拓につなげている。</p> <p>□ 児童生徒の実態に応じたキャリア教育の推進を, 小・中・高等部一貫して実施する。</p>

### 【 信頼される学校づくり 】

- 職員間で共通理解した3点(下記に示す)について確認するとともに, 児童生徒や保護者, 地域のニーズを適切に把握し, 学校の取組について分かりやすく情報発信することに努める。

- ① 児童生徒への丁寧な指導・支援ができる学校・教職員
- ② 保護者の期待に応え, しっかりと連携ができる学校・教職員
- ③ 地域の期待に応えられる学校・教職員

- 職員の意識向上のため, 「服務に関する研修」を年2回実施した。

8月と12月は, 研修を実施する月となっているため, 今年度は, 「わいせつ行為・セクハラ, 個人情報, 体罰, 公金等管理」について「チェックリスト」を実施し, その項目についての「標語」も作成し, 職員室のほか, 廊下等にも掲示し, 意識の高揚に努めている。昨年度も含めて, 全項目について, チェックと標語作成の機会を設定できた。

○ 種子島警察署との連携

児童生徒の行方不明の探索への協力のほか、職員が警察署内の研修で「障害のある児童生徒の理解・啓発」について講話をしている。また、サービスの研修に交通課長の講話を設定し、職員の交通遵守に関する研修も実施している。

□ サービスに関する研修は継続して実施し、教育公務員としての自覚を高めていく。

1 保護者や地域のニーズの把握

項目・取組	成果(○)・来年度の取組(□)
<p>(1) 保護者からの相談等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傾聴やカウンセリング的対応のほか、素早い対応に努める。</li> </ul>	<p>○ 特に、危険を伴うと予想される場合や、時間の経過を勘案すべき内容等、その内容に応じて、実践する。</p> <p>□ 職員が気付かないことも多いので、気軽に話してほしい。</p>
<p>(2) 「16 児童生徒・職員一体となり、環境整備や緑化に努める」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の共有を図りながら進める。</li> </ul>	<p>○ 必要性に応じて、職員の環境整備係や教材・教具係、PTA係等とも連携をとりながら進めていきたい。</p> <p>□ PTAの活動に取り入れるなど、工夫しながら実現できるようにしたい。</p>
<p>(3) 進路関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者との連携が重要である。将来を見据えた学校の取組を紹介しながら進めていく。</li> </ul>	<p>○ 児童生徒の実態と地域のニーズに対応できるように、情報の収集や発信に努めていきたい。今後、「進路コーナー」の設置も含めて検討していく。</p> <p>□ 進路指導主任や係、PTA活動等との連携も図りながら、丁寧に進めていけるように工夫したい。</p>
<p>(4) 今後の懸案事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時に備えての備蓄品目</li> <li>・ 災害時等における通学バス対応や引き渡し等への配慮</li> <li>・ 児童生徒の安全・安心に対する対応</li> </ul>	<p>□ 備蓄水のほか、家庭で準備する物に対する共通理解</p> <p>□ バス避難場所の確認や想定における児童生徒引き渡しに関する共通理解</p> <p>□ 校内の危険箇所をチェックし補修する。</p> <p>□ 児童生徒の探索活動について、体制を検討する。</p> <p>□ 保護者への素早い連絡の方法等を検討する。</p> <p>□ 医療機関等との連携の在り方を共通理解する。</p>

## 2 学校の取組についての情報発信

項目・取組	成果(○)・来年度の取組(□)
<p>(1) 新たなHPの開設</p> <p>(2) 連絡帳や学級通信(週報), 学部だよりの工夫</p> <p>(3) 関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民文化祭(CGアート)や絵画作品展の審査員等に関する講師の派遣</li> <li>・ 県の事業の一つを利用し, 自立活動に関する専門家の招聘で授業や日々の生活の指導に活用</li> </ul> <p>(4) 地域の特別支援教育のセンター的役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の巡回相談や職員研修の要請や教育相談(ひまわり)等に全て対応</li> </ul> <p>(5) 高等部卒業生への追指導</p>	<p>○ 県の方針に合わせて, 新たにHPを開設し, 少しずつ本校の取組を発信している。</p> <p>□ 内容等の充実を図っていきたい。</p> <p>○ 校務パソコンの使用制限により, 写真等の掲載が減少しているが, 県の方針を御理解していただき, 可能な範囲で提供している。</p> <p>□ 写真に頼らず, 言葉による説明文の工夫をしていく。管理職がチェックしながら, 各学級の取組等を確認できている。</p> <p>○ 要請を受け, 丁寧に対応している。</p> <p>□ 今後も同様に対応する。</p> <p>○ 授業に活用するため, 計画的に実施している。</p> <p>□ 来年度は2回実施する予定である。</p> <p>○ 地域の特別支援教育のセンター的役割を丁寧を果たしている。実績回数も年々増加している。</p> <p>□ 各学校の自立を目指した取組が, 今後の課題である。</p> <p>○ 1期生が成人式を迎え, その成長を職員で喜んでいる。学校を訪問し, 楽しい語らいの時間があったり, 必要に応じて, 関係機関と連携したりして定期的(月1回程度)に指導をしている。</p> <p>□ 3年間というガイドラインはあるが, 内容や方法等については, 今後更に関係機関との連携を検討していきたい。</p>
<p>(6) 受賞等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いきいき教育活動表彰: 高等部1人 鹿児島県教育委員会賞: 高等部2人</li> <li>・ 高美展: 入選 高等部3人 入賞 高等部2人</li> <li>・ なかたねの子等 勤労奉仕賞: 体育賞: 中学部2人 リーダー賞: 小学部1人 親切友情賞: 学芸賞: 読書賞: 高1人ずつ3人</li> <li>・ 漢字検定: 中学部 9級1人 高等部 8級1人 4級1人</li> <li>・ 熊毛美展: 推薦 小1人 特薦 小7人 中9人</li> </ul>	

### 3 その他（服務規律など）

- (1) 交通事故・違反等は現在はない。
- (2) 出勤時の服装や身だしなみを意識するようになっている。
- (3) 児童生徒に「立ち止まって挨拶する」ことを意識させるために、教師間での挨拶も丁寧になってきている。
- (4) 「モラルの維持向上のためのセルフチェックリスト」は全項目実施し、標語も活用しているため、職員の意識も向上している。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

